ISSN 2187-1841

千代田区立日比谷図書文化館

文化財ニュース

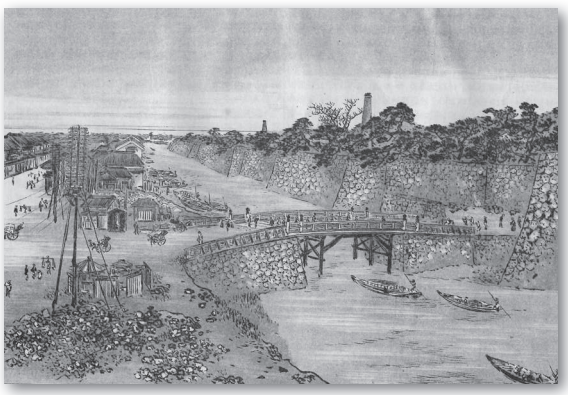
18 2019

ミニ企画展「日本橋川と大名屋敷―新発見・一橋徳川家屋敷跡―」開催

徳川将軍家を支えた御三卿は８代将軍・吉宗の子や孫を始祖として創設され、それぞれの屋敷の所在地付近にあった城門の名前にちなんで、田安、一橋、清水と呼ばれました。このうち一橋徳川家の屋敷は、一ツ橋門内にあったことが知られていましたが、明治期以降軍用地などとして開発が進んだことから、これまで本格的な発掘調査の機会はありませんでした。平成29年に初めて実施された発掘調査では、庭園の池跡や堀の遺構がみつかり、日本橋川と江戸城内堀に挟まれた屋敷地の様子の一部が明らかになりました。

本展示では、最新の発掘成果とともに、日本橋川周辺に立ち並んだ大名屋敷や町と水辺との関わりについて紹介します。

会期：令和元年７月17日（水）～８月25日（日）
※８月19日（月）は休館
開館時間：月～木曜、土曜　10時～19時
　　金曜　10時～20時
　　日曜・祝日　10時～17時
会場：千代田区立日比谷図書文化館
　　1階　特別展示室
※入場無料



明治時代の日本橋川
（『新撰東京名所図会』、区教育委員会蔵）

ミニ企画展

「日本橋川と大名屋敷ー新発見・一橋徳川屋敷跡ー」

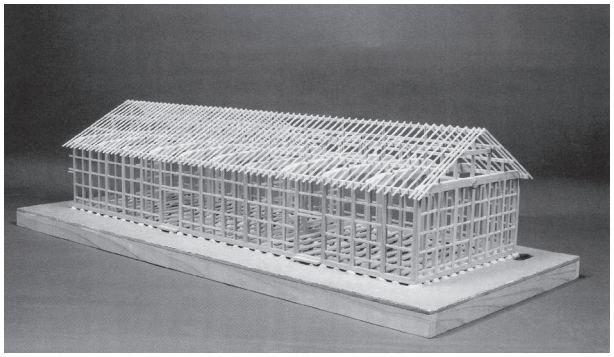
一橋徳川家は、８代将軍吉宗の四男・宗尹（むねただ）を始祖として享保 20 年（1735）に創設された家で、将軍家に継嗣が絶えた際には跡継ぎを出すことのできる「将軍家の家族」として幕府を支えました。同家の屋敷は、背後に一ツ橋御門、正面に平川門を見る内堀と日本橋川（外堀）に挟まれた要所に位置し、元文５年（1740）の拝領から幕末まで存続しました。

発掘された遺跡からは、17 世紀後葉から 18 世紀前葉の遺物（いぶつ）が多く検出されており、一橋徳川家が屋敷地を拝領するにあたって整備したことがうかがえます。また屋敷地西側の周辺部からは、庭園の池跡や内堀方向から水を引き込んだと考えられる堀の跡が見つかりました。

一橋御屋形并持場絵図（茨城県立歴史館蔵）

内堀方向から水を引き込んでいたとみられる給水口遺構

飯田町遺跡出土の浮き



九段南一丁目遺跡の礎石建物（復元）

日本橋川周辺の大名屋敷の発掘例の中で、注目されるのが水辺との関わりです。これまでにも飯田町遺跡や一ツ橋二丁目遺跡で上水を水源にしたとみられる庭園の池跡が見つかっています。特に飯田橋遺跡の池跡からは、讃岐高松藩（さぬきたかまつはん）松平家が拝領した時期のものとみられる浮きが出土しており、大名や藩士たちが釣りを楽しんだ様子がうかがえます。

その一方で、日本橋川を臨む軟弱な地盤は、屋敷を造成するうえで大きな課題ともなりました。九段南一丁目遺跡で見つかった礎石建物（そせきたてもの）は、３ｍにも及ぶ高低差を盛土によって造成したうえに建てられ、基礎となる礎石も地盤に合わせて配置されるなど、水辺での建築に苦心した様子を伝えています。

展示室では、こうした土地利用の様子や、地図や地誌に描かれた周囲の景観についてもあわせて紹介します。（相場 峻）

ミニ企画展関連講座

「発掘された一橋徳川家屋敷跡（仮）」

一橋徳川家屋敷跡の発掘でみえてきた、屋敷地の整備や水辺の利用について現場写真をまじえて解説します。

講師：櫻井邦治（一橋徳川家屋敷跡・発掘担当者）、相場峻（千代田区学芸員）

日時：８月７日（水）19 時～ 20 時 30 分

会場：日比谷図書文化館４階スタジオプラス（小ホール）

参加費：500 円

定員：60 名（応募者多数の場合は抽選、区民優先）

申込方法：７月 16 日（火）必着までに往復ハガキ

宛先　千代田区日比谷公園 1-4 千代田区立日比谷図書文化館
文化財事務室　宛

必要事項　①お名前 ②年齢 ③住所 ④電話番号

千代田区指定の新文化財

有形文化財（書籍・絵画・工芸品）
名称　杉山鶏児書「大日本帝国憲法発布奉祝文」
及び河鍋暁斎筆「舞楽蘭陵王図幕絵」
所蔵　千代田区教育委員会

平成 31 年 4 月 1 日付で新たな千代田区指定文化財が誕生しました。杉山鶏児の書と河鍋暁斎の絵が表裏縫い合わされた、縦 227.0㎝、横 542.5㎝に及ぶ巨大な幕です。この文化財は明治 22 年（1889）2 月 11 日の大日本帝国憲法発布を祝うための飾りとして、当時の麹町四丁目町会が依頼人となって制作したものです。明治 22 年 2 月 9 日付『読売新聞』の記事には、「同区（麹町区）出し物ハ（中略）、**巻物方大燈籠同四丁目但表祝文裏舞楽の図暁斎の画**」と紹介されています。

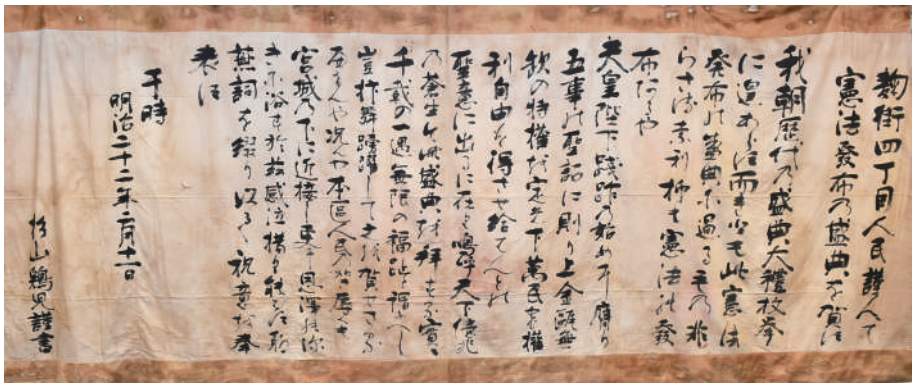
2 人の作者のうち杉山鶏児については、生没年を含め詳細はよくわかっていません。しかし、『公文類纂』から海軍省や文部省で働いていた人物であること、また『骨董秘訣鑑定新書』などの書籍の奥付に名前が登場し、静岡県士族であり本の校閲の仕事に携わっていたことがわかっています。

もう 1 人の作者である河鍋暁斎（1831-89）は、幕末から明治期に活躍した絵師として名が広く知られています。7 歳のころ幕末の浮世絵界を牽引した歌川国芳に入門し、その後前村洞和や狩野洞白に師事して狩野派の画法を習得しました。鋭い観察眼に基いて描かれた発想に富む作品は、日本のみならず海外でも高い評価を受けています。

憲法祝典ののち幕は、関東大震災を経て麹町三丁目町会に受け継がれます。そして祭礼の御神酒所幕として使用されながら現在まで大切に守り伝えられ、平成 30 年 9 月千代田区へと譲り渡されました。

近代日本最初の憲法発布という歴史的な出来事の中で生まれた幕は、当時の麹町の人々の祝賀の様子を伝える重要な資料として、また稀代の絵師である河鍋暁斎が描いた幕絵の数少ない現存例という貴重な作品として、区が未来へ残したい大切な文化財のひとつです。（山田将之）

※今回の指定で区指定文化財は合計 78 件（追加指定を含む）になりました。



杉山鶏児書「大日本帝国憲法発布奉祝文」

河鍋暁斎筆「舞楽蘭陵王図幕絵」

こども体験教室ー手描提灯をつくろうー

江戸時代以来、神社のお祭りやお盆の風物詩として親しまれてきた提灯や昔の明かりにふれる体験教室です。当館が所蔵している実物資料に触れながら、昔も今も人々の生活に欠かせない、明かりの歴史について学びましょう。また、安政元年（1854）創業の老舗・吉野屋商店の吉野由衣子氏を講師にお招きし、提灯の絵入れを体験します。最後に LED ライトを使って灯すと、幻想的で夏の夜にぴったり。皆さまのご応募をお待ちしております。（篠原杏奈）

絵入れの様子（平成 30 年度）

「手描提灯（てがきちょうちん）をつくろう」

開催日時：令和元年 8 月 24 日（土）
14 時～ 16 時 30 分

場　　所：千代田区立日比谷図書文化館
1 階 特別展示室

講　　師：吉野 由衣子氏（吉野屋商店）

参 加 費：1 組 500 円(資料代・保険料含む)

対　　象：区内在住または区内の小学校に通う小学 3 ～ 6 年生とその保護者

募集人数：25 組 50 名
※応募多数の場合は抽選

応募期間：7月5日(金)～26日(金)〈消印有効〉

申込方法：往復ハガキに①～⑤を記入し、以下の住所へお送りください。

①「手描提灯をつくろう」参加希望
②郵便番号・住所
③氏名（ふりがな）、保護者の氏名
④年齢・学校名・学年
⑤電話番号

宛先　〒 100-0012
千代田区日比谷公園 1-4
日比谷図書文化館　文化財事務室　宛

都営地下鉄 ●三田線 ―「内幸町駅」徒歩3分
東京メトロ ●千代田線
●日比谷線
●丸ノ内線
―「霞ヶ関駅」徒歩5分

駐車場　当施設に駐車場はありません。

開館時間　月～金　10時～22時
土　10時～19時
日・祝　10時～17時
文化財事務室　月～金　10時～18時
※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。
休 館 日　毎月第3月曜日
年末年始（12月29日～1月3日）
特別整理期間

文化財ニュース　第18号　（3,000部）
発行日　令和元年7月5日
編集・発行　千代田区立日比谷図書文化館　文化財事務室
〒100-0012　東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL：03-3502-3348 FAX：03-3502-3361
HP：http://edo-chiyoda.jp
e-mail：bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp
印刷　株式会社サンワ